

理 事 長 挨 拶

全国から5,000名を越す参加者を迎えて、第60回全国ろうあ者大会をかくも盛大に開催できますことは、まことに主催者として深く光栄とし、かつ、感謝とするところであります。

敗戦後の混乱の中に、1948年5月に初めて全国ろうあ者大会をここ京都市で開催して以来、様々な変遷を経て、本日、第60回という大きな節目の大会を迎え、また当連盟も創立65周年を迎えることができましたことは、往時を顧みて、感無量のものがあります。

聴覚障害者の生活と人権を守り、社会参加を推し進めてきた私たち先輩たちのご苦労は相当なものであったに相違ありません。あらためて先輩たちや私たちのために御支援いただいた多くの関係者の方々に感謝の意を表します。

昨年は東日本大震災で被災された方々への支援を始め、「すべての障害者に、情報アクセス・コミュニケーションの権利を保障する法制度の実現」を求めて行った「We Love コミュニケーション」で、全国から116万余の署名を集めました。この署名が国を動かす力となり、日本の法制史上初めて、改正障害者基本法に「言語（手話を含む）」と規定されました。全国の仲間の力を信じたからこそ、国民の理解を得て初めて実現できたものと確信しております。

申すまでもなく、私たちの言語である手話を豊かに育み、制度に根付かせるとともに、全ての障害者の情報アクセス・コミュニケーション保障を求めて、さらに国民とともにその運動を進めてまいりたいと思うのであります。

最後になりますが、本大会開催にご努力いただきました実行委員会の皆さま、公私ともお忙しいところをご臨席くださいました京都府および京都市をはじめご来賓の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

本大会のテーマ「新しい次代に伝えよう、千年の都 京都から」が示す通り、先人の礎を受け継ぎ、そして、この大会を機に、すべての障害者が暮らしやすい社会を築くことを誓いまして、私の挨拶とさせていただきます。